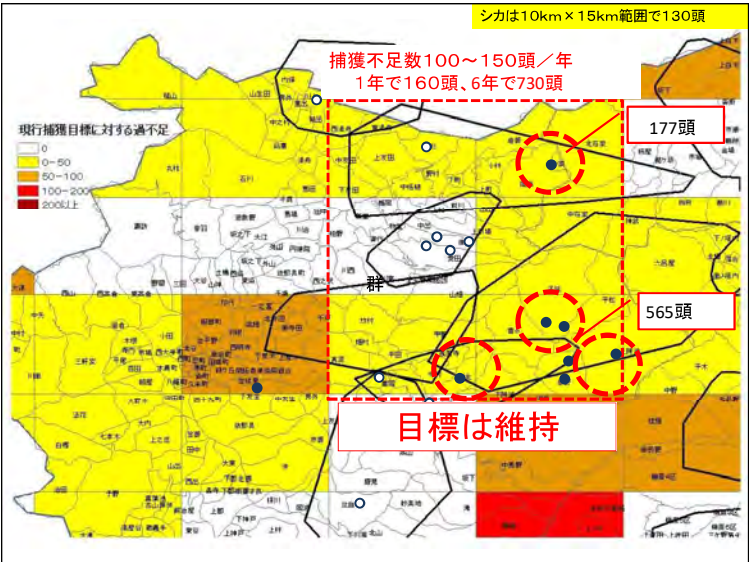
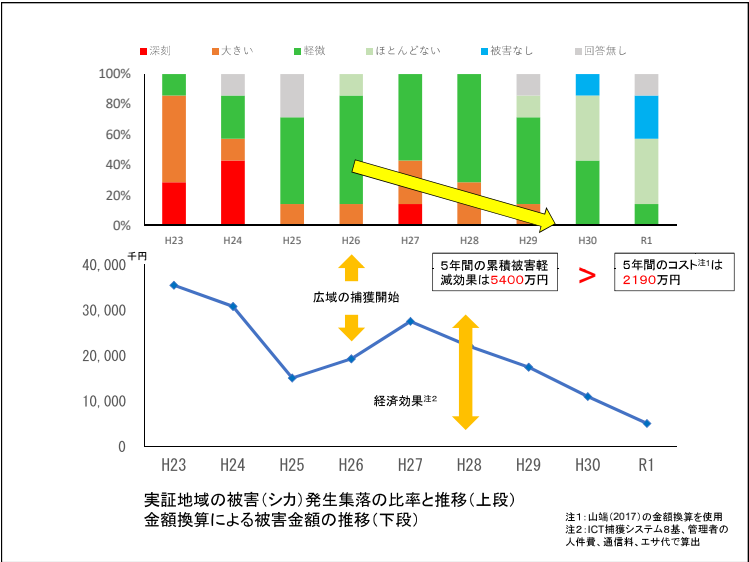
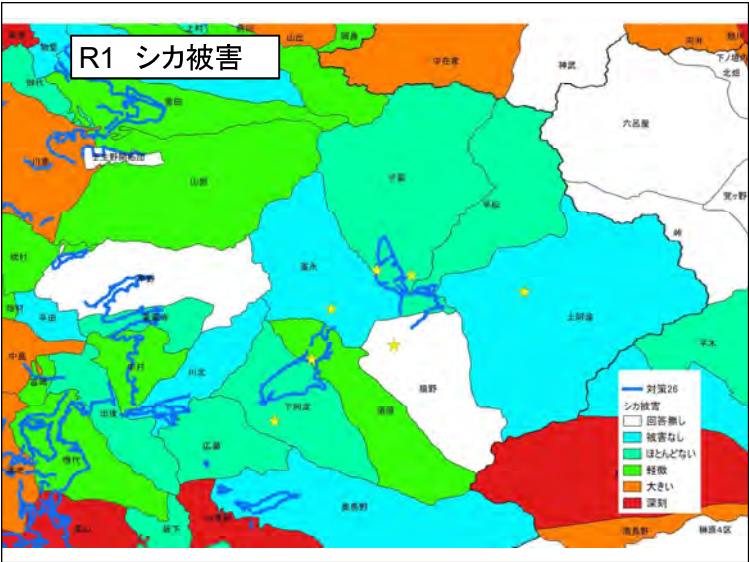
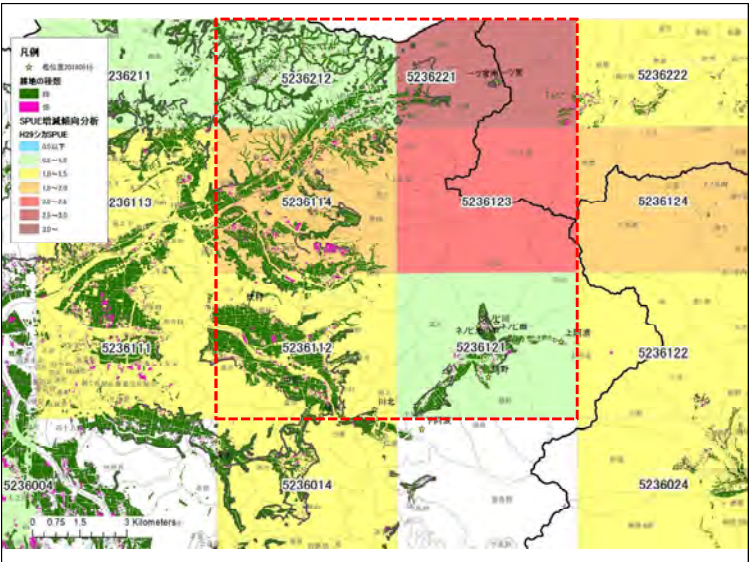
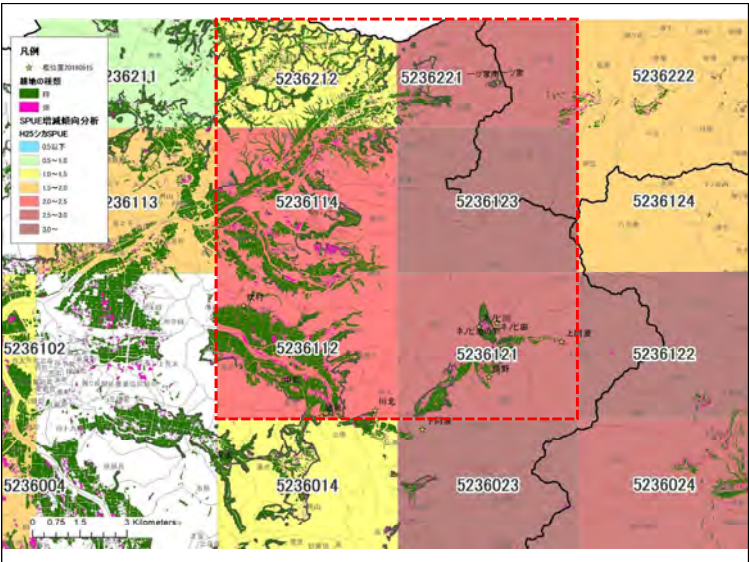




密度指標は？



サルの群れ管理と被害管理が
進んだ地域は被害が解消

三重県伊賀市

「正しく」追い払う
(サル)

効果の出ない追い払いの行動様式

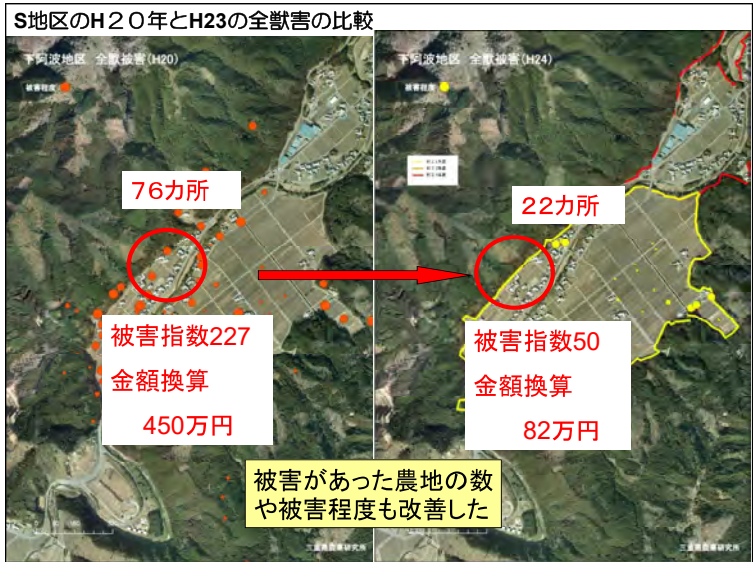
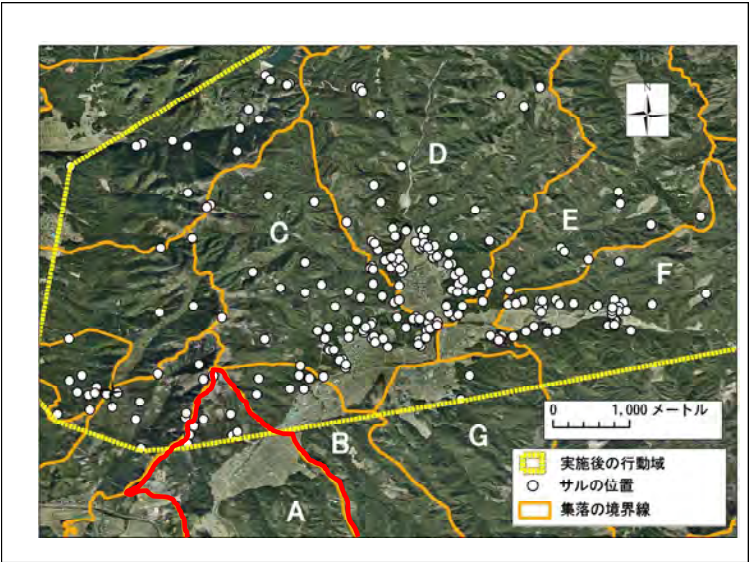
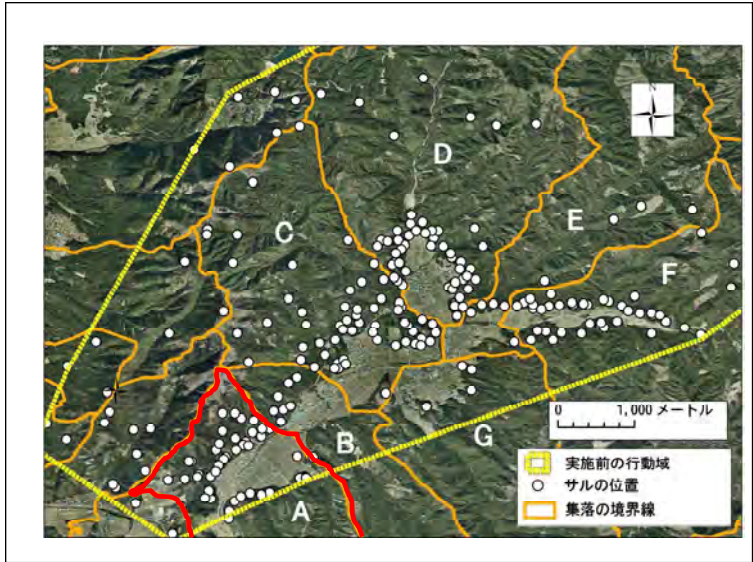


追い払いの研修会

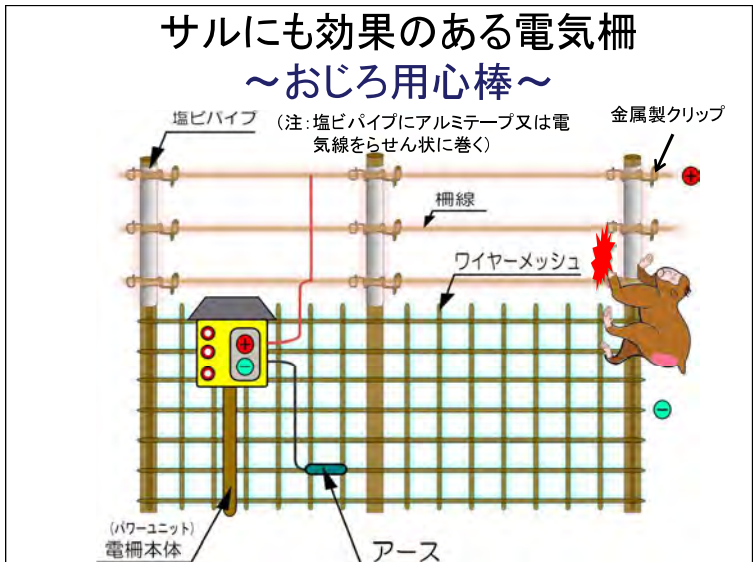


効果が出た追い払いの行動様式





**正しく囲えば
サルも防げる**



果樹も守れるはず



獣害の軽減は、営農意欲を回復し、「生きがい」づくりにもなる

おじろ用心棒の効果

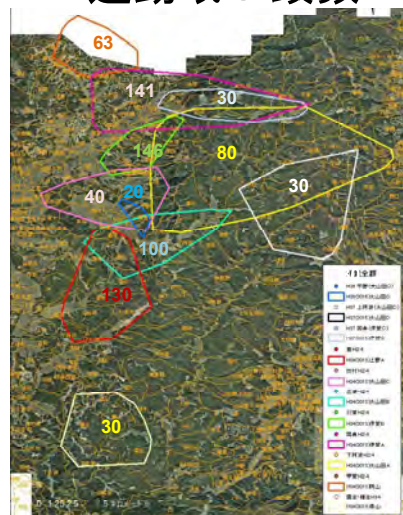


柵をしてから沢山穫れる(スイカもたくさん)

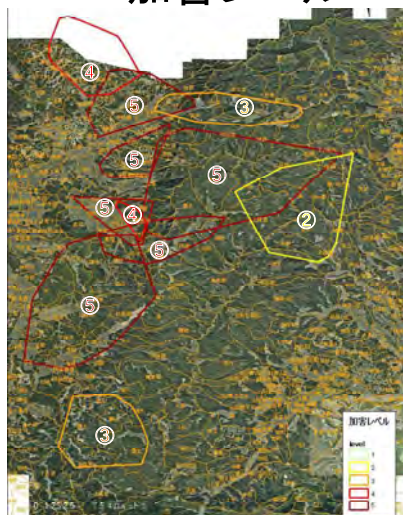
このおばあさんは、「毎日」畑に現れる(カメラに映る)

併行して
群れの頭数管理

遊動域 & 頭数



加害レベル

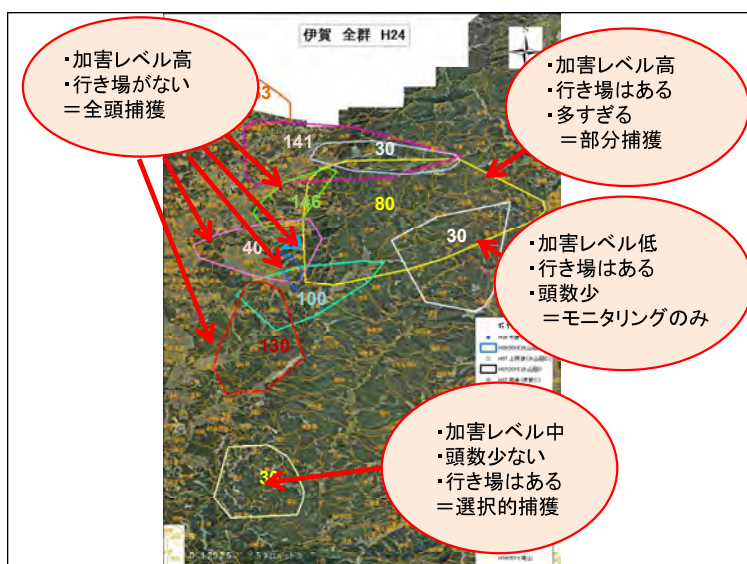


・加害レベル高
・行き場がない
＝全頭捕獲

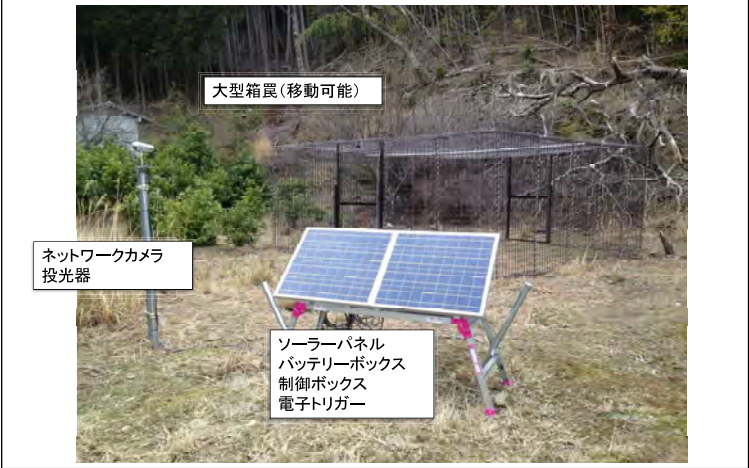
・加害レベル高
・行き場はある
・多すぎる
＝部分捕獲

・加害レベル低
・行き場はある
・頭数少
＝モニタリングのみ

・加害レベル中
・頭数少ない
・行き場はある
＝選択的捕獲

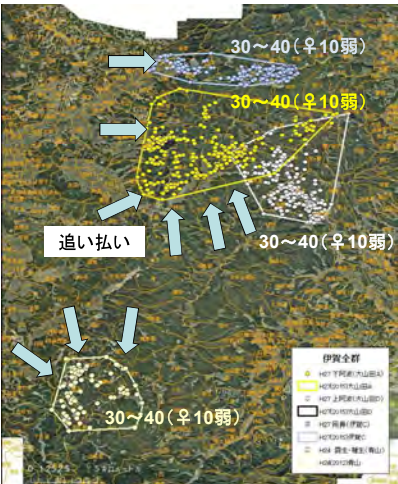


移動可能な大型箱罟＋遠隔監視・操作機器

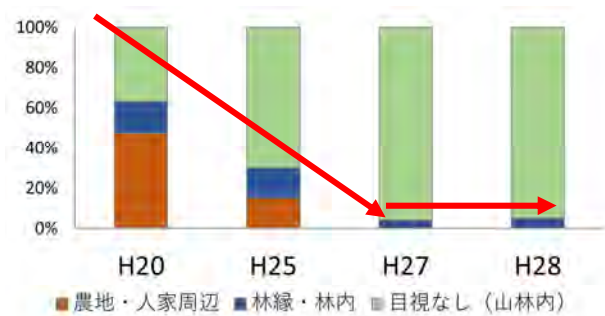


63頭捕獲(130頭の群れを1回で半減。数回で全頭捕獲)

最終的な管理目標
被害対策と群れ単位の個体数管理



出沒環境の変化(2019山端他改変)

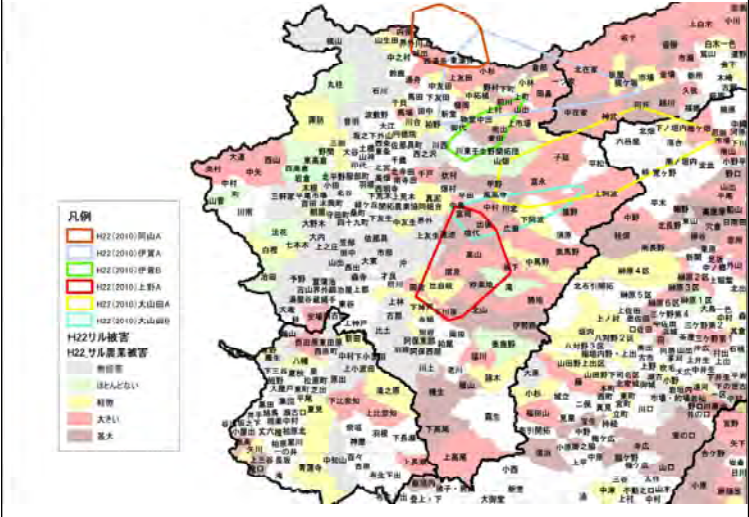


H20 被害対策なし	60頭
H25 広域での被害対策進展	80頭
H27 個体数削減後	32頭

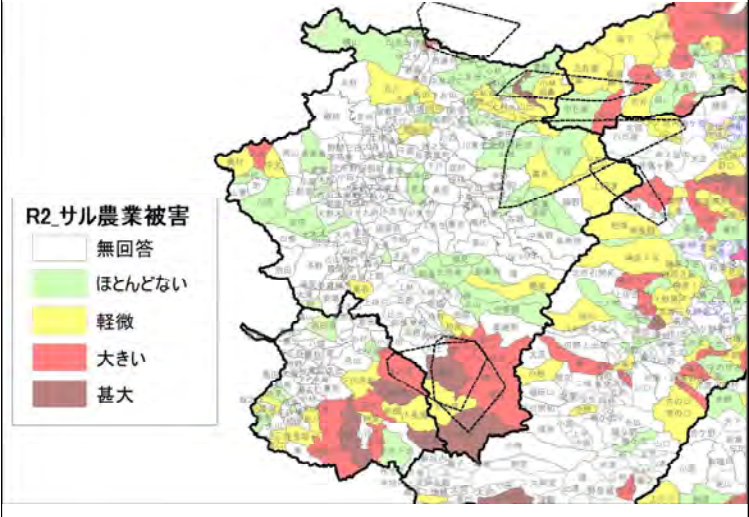
集落への出沒率(林縁を含む目視率)は更に低下し、それを維持

※15回/月、200回/年程度のテレメトリー調査時の目視、利用環境調査より

被害発生集落の変化(2019山端他改変)



被害発生集落の変化(2019山端他改変)





去年は稲もサル被害が多かったが、今年は全くない

- 冒頭のビデオで苦情が多発していた集落(同一人物)
- 被害は**全くない**。野菜も**採れる**
- 過去の苦情多発からの大きな変化



今年

柿はほとんどが残っている

営農意欲も改善する！！



今年は是非、とうもろこしをつくりたい

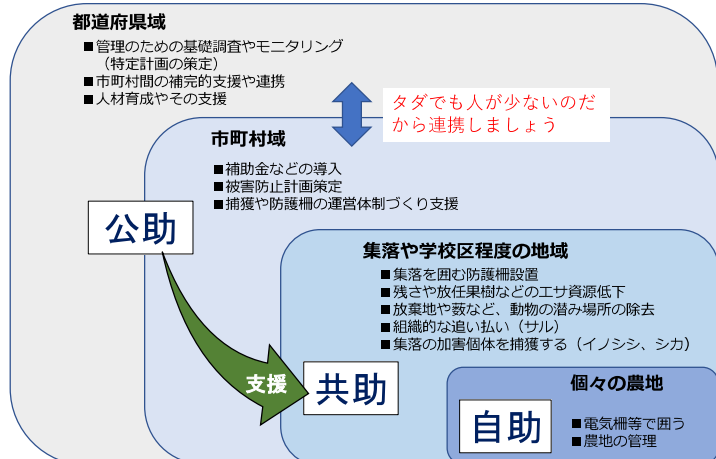
↑ 冒頭のビデオで以前は苦情を言っていた人

課題

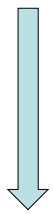
技術的には、獣害は解決できます

- 問題は、実践する体制
- 「獣害につよい集落」づくり
- 個体数管理と被害管理に必要な支援

野生動物管理・獣害対策の主体間の役割



合意形成の目標



■理解

■納得

■共感

「共感」を得ていく手法

ステップ0 関係機関の協議（作戦会議）



関係機関の役割分担は必須。今は役割なくても、進展中に役割が生まれるものです。

最初のモデルは成功させないといけない＝**総力戦**

GIS の活用について

既往データを可視化

R3イノシシ被害



R3防護柵で防げない場所

